

彼を深く崇敬します。

なぜなら神様は彼から視覚を奪いましたが
ピアノで偉業をなすべく心と体を付与したのです。
ショパンの協奏曲をあれほど甘美で優しく
心揺さぶる誠実さで弾ける！
私は涙をこらえきれずにホールの外に出ました。

————— メナヘム・プレスラー

(辻井伸行が日本人初優勝を飾った「ヴァン・クライバーン
国際ピアノ・コンクール」で審査員を務めた名ピアニスト)

©Yuji Hori

辻井伸行 オルフェウス室内管弦楽団

ミチ・ウィアンコ: ショピニアーナ (オルフェウス委嘱作品)

ショパン: ピアノ協奏曲第2番 (リー・シューインによるピアノと
オルフェウスのための編曲版) [ピアノ: 辻井伸行]

ショパン: ピアノ協奏曲第1番 (リー・シューインによるピアノと
オルフェウスのための編曲版) [ピアノ: 辻井伸行]



辻井伸行 × オルフェウス Orpheus

NYカーネギーホールを感動の渦に巻き込んだコンサートの日本公演が実現！
辻井伸行と全員ソリスト級超絶アンサンブル集団“オルフェウス”夢の共演！

2024 **2.7 (水) 19:00** 開演 (18:00開場) **愛媛県県民文化会館 メインホール**

チケット発売日

S席 15,000円 / A席 12,000円 / B席 8,000円 / C席 5,000円 (全席指定/税込)

2023年 **10月2日(月)朝10時**

◆ **ローソンチケット**
[ローソン・ミニストップ]

<https://l-tike.com/> Lコード 61685

◆ **(公財)愛媛県文化振興財団**

TEL 089-927-4777 (平日 9:00 ~ 17:00)

お問い合わせ

南海放送
チケットセンター

TEL 089-915-3838

(平日 10:00 ~ 17:00)

※開場は開演の60分前です。※辻井伸行は協奏曲に
出演します。チケットはお1人様6枚までとさせていただきます。
※未就学児のご入場はお断りいたします。
※出演者・曲目・曲順等は変更になる場合がございます。
※車椅子でご来場されるお客様はご購入前に南海放送
チケットセンターまで必ずお問い合わせください。

主催: 南海放送・(公財)愛媛県文化振興財団 企画・制作: エイベックス・クラシックス・インターナショナル 制作協力: インタースペース

オーケストラ・スポンサー: **KPMG**

辻井伸行 オフィシャル・エアライン: **ANA**

70th 私たちは、愛媛主義 **南海放送**

avex classics
international

辻井伸行×オルフェウス

指揮者を必要としない**精錬**されたアンサンブル

濁りのない**透明感**溢れるオーケストラ・サウンド

ホールに響き渡る**伸びのある**音響

息をのむほど**美しいソロ**の美技

一丸となってフィナーレに**突き進む圧倒的**な高揚感

驚異的なアンサンブル力で世界中に絶賛の嵐を巻き起こす「指揮者のいないオーケストラ」オルフェウス室内管弦楽団。本拠地ニューヨーク、カーネギーホールの定期演奏会で、ソリストに辻井伸行を迎えて初披露された、オルフェウスのために新アレンジされたショパン：ピアノ協奏曲第2番は、ホール全体がスタンディングオベーションに包まれる大成功を収め、2024年1月の定期演奏会では、多くの聴衆の要望を受けて協奏曲第1番の新アレンジ版が初披露されます。

2024年2月、ショパンの協奏曲と彼らのためにアレンジされた名曲をひっさげての日本ツアーが実現！世界中で絶賛される辻井伸行ならではのショパンと世界最高峰のアンサンブルの妙技を生演奏で体験できる貴重なコンサートの開幕です。

ソリストや名門オーケストラのリーダーとして活躍する名手集団だからこそ実現できる究極のアンサンブル力、そして、ソリストたちが意見をぶつけ合いながら綿密に行うオルフェウスならではのリハーサル方式は、名門指揮者と一流オーケストラにもなし得なかった新しい魅力を、あらゆる場面で引き出すことに成功し、聴衆に新鮮な体験と圧倒的な感動を呼び起こします。あなたも、このオルフェウス・ショック！とも呼べる衝撃の感動を体験してみませんか？

思わず座席から身を乗り出しそうになる強烈な演奏

——— ニューヨーク・タイムズ

オルフェウス室内管弦楽団というアンサンブルは「音楽における民主主義」の急進的な実験集団である。お互いを完全に信頼し合い、創造的なプロセスを信じる並はずれた演奏家たちが集まった時に何が起きるかを過去50年にわたって実証してきた。オルフェウスは、1972年にチェリストのジュリアン・ファイファーがニューヨーク在住の20代前半のフリーランスの演奏家を集めて、オーケストラ・レパートリーをあたかも室内楽のように演奏させた時から始まった。あの協同組合とコミュニンの時代にあって、理想主義的なオルフェウスは、世の交響楽団がたどる「法人組織」的な道を歩いて、真の共同体として、どのように演奏し、どう計画を立て、コンサートのプロモーションをどう進めていったらいいかを学んだ。リーダーは最初の演奏の時から持ち回り制だった。

弦楽四重奏団の4人の奏者にとっては、グループのサウンドに寄り添うこととその中で自分なりに自然な反応をするのは同じ1つのことだが、20人とか30人の奏者が集まった場合には、そのプロセスの複雑さも、それがもたらす結果の多様性も、指数関数的に増加する。オルフェウス室内管弦楽団は、カーネギーホールを本拠として、最初の10年間にヨーロッパとアジアへの演奏旅行を通じて世界的なセンセーションを巻き起こした。オルフェウスの録音目録——ドイツ・グラモフォンやノンサッチ、その他のレーベルで録音してきた——はこれまでにアルバム70点以上にも及んでおり、ハイドンの交響曲とモーツァルトのコンチェルトから、ストラヴィンスキー、シェーンベルク、ラヴェル、バルトークなどによる20世紀の傑作までを含むこれらのアルバムは、今でも室内管弦楽団レパートリーの基準となっている。

オルフェウスのサウンドは演奏家同士の関係によって決まる。そのプロセスの中では客演演奏家が常にきわめて重要なパートナーとなってきた。オルフェウスは共演者から

最高のものを引き出す。そしてその絆が時とともにさらに強まり深まってゆくことは、リチャード・グールド、ブランフォード・マルサリスといったソリストたちとの長年にわたる音楽づくりや、辻井伸行やティネ・ティンガ・ヘルセツなど、将来を嘱望される次世代演奏家たちとの取り組みから実感できる。オルフェウスは、クラシック・レパートリーの境界線を越えた、ブラッド・メルドー、ウエイン・ショーター、ラヴィ・シャンカールなど、ジャズ界やその他の分野の多数の演奏家たちとの協力関係を通じて、室内管弦楽団にできることを定義し直してきた。作曲家たちとの関係や作曲家への多数の委嘱作品もオルフェウスの発展にとって非常に重要な役割を果たしており、作曲家のジェシー・モンゴメリーをオルフェウス初の芸術パートナーとしたこともその1つの表れと言える。直接的なコミュニケーションが持つ力と、偏見のない開放的なアンサンブルが持つ力を実証してきたオルフェウスは、唯一、指揮者との関係だけは利用したことがない。

ニューヨークを本拠としながら米国内外の多数のコンサートホールを訪れるオルフェウスの次の50年は、周辺地域社会との関わりを深め、より豊かにするための新たな取り組みから始まる。また、これまで通りに、アルツハイマー病の人々との共生という画期的な取り組み「オルフェウス・リフレクションズ」を続けるとともに、「オルフェウス・アカデミー」と「オルフェウス・リーダーシップ研究会」は若い音楽家たちと権力を持つ人々に対して信頼と民主主義を広める活動を行う。「アクセス・オルフェウス」は、毎年、ニューヨーク市の5つの独立区すべての公立学校の学生生徒2千人によって活用され、地域社会に音楽を持ち込み、また彼らをカーネギーホールに招き入れるのに貢献している。演奏家としてまたリーダーとして常に進化を続けるオルフェウスのメンバーたちは、彼ら自身の芸術性とお互いを尊敬し合う関係に頼りながら、音楽づくりを進め、変化をもたらすことによって、彼らが受け継いできたものをさらに発展させようと努めている。